



災害時学校支援チームみやぎの活動について

～能登半島地震に伴う派遣報告～

令和6年1月1日に発生した能登半島地震から2ヶ月余りが経過しました。大きな揺れによる建物の倒壊、断水等のライフラインの寸断など、被災地石川県は厳しい生活環境の中でも、前を向いて復旧復興のため歩み始めています。

県教育委員会では、能登町にある小学校5校、中学校4校、高等学校1校の教育活動支援を行うため、1月23日から3月1日まで災害時学校支援チームみやぎに登録されている教職員18名を派遣しました。各学校では、校舎が使用できなかつたり、体育館や校舎の一部が避難所になっていたりと東日本大震災の時と同じような状況にありました。

令和元年に発足した支援チームにとって、初の県外での支援活動になりました。東日本大震災の教訓をもとに、各学校で支援活動を行った様子を掲載します。なお、紙面の都合上、掲載できなかった方々の報告については、各種研修会で紹介します。

～能登町派遣を終えて～

※活動報告書から一部抜粋



今回の能登町派遣を終えて、「被災地の教職員しかできない支援がある」と感じました。

東日本大震災の際、私は当時の女川町立女川第一小学校に勤務し、避難所運営と児童受け入れ・学校再開との両立、学校移転と隣接小中学校校舎の共同使用（間借り）そして閉校を経験しました。また、私自身も被災しました。

私が支援に入った能登町立松波中学校は、近隣の松波小学校が間借りし、体育館や一部教室が避難所や薬局のスペースになっていました。また、先生方は奥能登に住んでいる方が多く、自身も被災しながら学校運営に当たっていました。

校内研修会で出た「知りたいこと」は、生徒の心のケア・教科指導・運動量の確保・地域とのかかわり・今後の見通し…など、東日本大震災の時にも感じた課題であったので、できるだけ当時の経験や感じたことなどが伝えられれば、と思いました。特に「間借り」については、借りる側と貸す側で意識の違いが当時あったので、借りる側としての意識や必要なものを伝えるようにしました。先生方とは、「被災地の教職員」だから話せたり、相談したりできることがあるのかなと思ってコミュニケーションを図ってきました。「支援チームみやぎ」として行く意義が、ここにあるのかな、と思います。

宮城県松島自然の家 中澤 健一



能登町立小木小学校への派遣を通して、被災地の被害の現状やそこに住む人々の姿を初めて目の当たりにしました。想像していたよりも町の被害は大きかったです。小木小学校の児童はとても朗らかで元気でした。先生方は、更に被害の大きい珠洲市や輪島市から通勤している方が多く、たくさんの不安や悩みを抱えていましたが、児童の前では普段以上に明るく振る舞っていました。能登の先生方の大きな誇りや胆力を垣間見ました。同時に、東日本大震災という大きな出来事を宮城の子どもたちが乗り越えられてきたのは、宮城の先生方が

支えてくれたからなのだと改めて考えさせられました。

各学年の学活の授業では児童に向けて、放課後には職員研修という形で先生方に向けて、宮城の防災教育や心のケアについての講話をさせていただきました。特に宮城の現在の様子に興味を示している方が多く、東日本大震災で被害を受けた沿岸の街が、整備されて復興してきている写真を見せたときには、涙を流されている方もいました。短期の派遣で力になれたことは少なかったですが、自分の経験を伝え、児童や先生方の話を聞くことで小木小学校が元気になる力添えができたと感じます。

塩竈市立浦戸中学校 小嶋 望史



宇出津小学校では、児童の約3割が家が倒壊するなどの被害を受け、避難所から登校をしている児童もいました。自宅が倒壊して帰れずに学校で寝泊まりしている先生も何人かいました。私が滞在した期間も余震が続いており、地震が起こるたびに低学年の児童は不安な顔をして怖がる様子が見られました。また、先生方も疲労で限界を越えている状態なので、学校の掃除や、学校に届いた支援物資の仕分けなどを行い、少しでも先生方が自分の家のこと等ができるよう活動してきました。

現地の先生方に話を聞くと、今一番つらいのは「見通しがもてない」ことだと言っていました。いつまで続くか分からない現状に、不安を感じながらも日々精一杯目の前の子ども達と接している状態です。子ども達も同様で、学校では明るく振る舞っていますが、ふと暗い表情になったり、明らかに以前と様子が変わったりする児童もいるとのことで、心のケアが必要だと強く感じました。能登半島地震で被害に遭われた地域の1日も早い復興を祈りたいと思います。

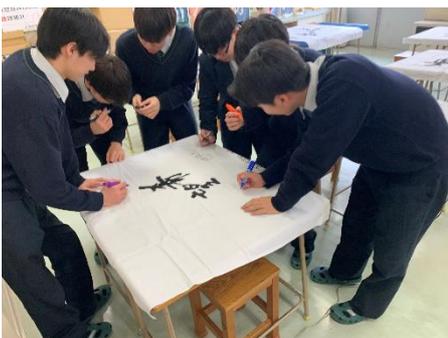
富谷市立成田中学校 松本 圭輔



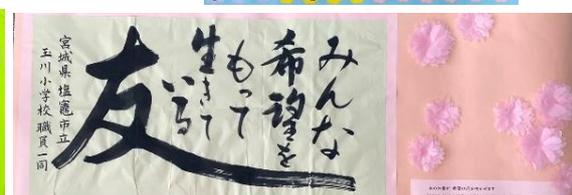
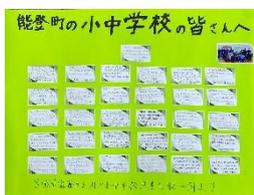
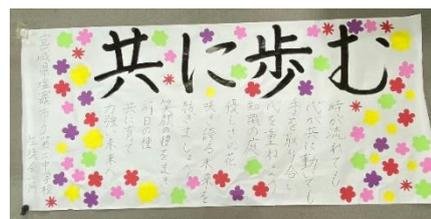
少しでも先生方の役に立ちたい、子供たちを元気づけたいという思いで、能登町に入りました。限られた時間でしたが、授業を通して、子供たちの笑顔や真剣な表情を見ることができたことは、うれしかったです。校舎内の環境整備が主な仕事でしたが、物資を運んだり、散らかった教室を片付けたりすることで、先生方に感謝され、役に立っているという実感がわきました。また、チームみやぎの制度そのものが素晴らしいという意見も伺いました。中でも印象に残った出来事が松波小学校の6年生を送る会です。6年生が元気にダンスを披露した後一人一人将来の夢を発表していました。困難に負けず、夢に向かって力強く生きていこうとする決意に胸を打たれました。子供たちの存在は地域の希望であり、教育は未来を創る仕事であることを痛感しました。

大崎市立岩出山小学校 高橋 暁寛

—心のこもったメッセージも送りました—



【涌谷高等学校製作の様子】



【塩竈市内各学校から（一部掲載）】